

第2章 消防施設の目指すべき姿

消防本部施設は、火災、救急、救助等の災害時の活動拠点であり、日々発生する消火、救急、救助活動をはじめ、いつ起こるかわからない災害などに迅速に対応するため、24時間稼働しています。そのため、効率的で迅速に業務が遂行でき、実践的で効果的な訓練が可能な各種訓練施設等を備えるなど、機能性が高く消防力が向上する庁舎が求められています。

消防団施設は消防本部や消防署と同様の消防機関で、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、市民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

消防施設には、防災拠点施設機能、事務所機能、充実した訓練施設、利用者ニーズへの配慮や環境に優しく経済性に優れた施設等の機能が求められています。

これらを踏まえ、以下のとおり消防施設の目指すべき姿となる(1)から(4)を設定します。

(1) 安全安心な施設

劣化が進む部位の点検を行い、老朽化する施設に適切な保全を行うことで、安全安心な施設を目指します。

(2) 防災拠点としての施設

近年の大規模な自然災害から、市民の安全安心を守る消防行政サービスの拠点を目指します。

(3) 持続可能な施設

設備の更新、改修時においては、省エネルギー性能の優れた設備導入などにより、環境負荷の低減に配慮した、持続可能な施設を目指します。

(4) 環境変化に対応した施設

人口減少等による利用需要の変化に応じた効率的・効果的環境の整備を目指します。

参考として、「取手市公共施設等総合管理計画」(平成 28 年(2016)7月策定)に掲載されている消防施設の課題の内、未対応の課題と、改善の方向性は以下のとおりです。

課題

- ・ 消防団車庫は築 30 年以上を経過した施設が約半数あるため、更新が必要となっています。
- ・ 消防庁舎には、十分に活用されていないスペースがあるため、さらに有効活用を図っていく必要があります。
- ・ 消防組織法により、消防の広域化が推進されており、今後その対応が必要となります。

改善の方向性

- ・ 消防署は市民の安全・安心な暮らしを守る消防活動等の重要な拠点施設であり、今後長期に使用できるよう、計画的な保全の考え方に基づく改修等を実施し、長寿命化を図り機能を維持していきます。併せて、バリアフリー化や環境に配慮した仕様を検討していきます。
- ・ 消防庁舎の更新の際には、対象地域の人口、世帯数の推移や道路の整備状況を踏まえて、再配置を含め計画を検討していきます。
- ・ 消防団車庫は、緊急・災害時における地域に密着した消防団員の詰所となるため、消防団員の確保も含め、消防活動等を行う機能を維持していきます。
- ・ 消防庁舎の活用されていないスペースの有効活用を検討していきます。
- ・ 消防の広域化への対応を検討していきます。